

1
文法

問題用紙

言葉の単位

1 言葉の単位 次の文章を読んで、あと

の問いに答えなさい。

よだかは、実にみにくい鳥です。

顔は、ところどころ、みそをつけたようにまだらで、くちばしはひらたくて、耳までさけています。

足は、まるでよばよばで、*一間とも歩けません。

ほかの鳥は、もう、よだかの顔を見ただけでも、いやになってしまうというぐあいでした。

たとえば、ひばりも、あまり美しい鳥ではありませんが、よだかよりは、ずつと上だと思っていましたので、夕方など、よだかにあうと、さもさもいやそうに、しんねりと目をつぶりながら、首をそっぽへ向けるのでした。もつとちいさなおしゃべりの鳥などは、いつでもよだかのまっこうから悪口をしました。

(宮沢賢治「よだかの星」から)

*一間＝約一・八メートル。

(1) 右の文章は、①いくつの段落、②いくつの文でできていますか。それぞれ漢数字で答えなさい。

①

②

7×2

(2) 「よだかは、実にみにくい鳥です。」

は、①いくつの文節、②いくつの単語でできていますか。それぞれ漢数字で書きなさい。

①

②

7×2

2 文節 次のそれぞれの文を、〈例〉に

ならって、文節に分けなさい。

〈例〉日が昇る。↓日^{のほ}が昇る。

① 大きな音がした。

② 雨も小降りになった。

③ 先生が黒板に字を書く。

④ 急いで外へ出ていった。

⑤ ネコが首をかしげている。

⑥ ひまだったので、遠回りして家まで帰った。

3 単語 次のそれぞれの文を、〈例〉に

ならって、単語に分けなさい。

〈例〉日が昇る。↓日^がが昇る。

① 目を丸くする。

② 馬がわらを食べる。

③ 手を頭の後ろで組む。

④ 紫色の花が咲き乱れる。

⑤ あれが私たちの学校です。

⑥ 汽車はゆっくり駅を出てゆきました。

6×6

6×6

1

文法

解答解説

言葉の単位

解答

解説

1

- (1) ①五 ②六
(2) ①四 ②六

2

- ① 大きな／音が／した。
② 雨も／小降りに／なつた。
③ 先生が／黒板に／字を／書く。
④ 急いで／外へ／出て／いった。
⑤ ネコが／首を／かして／いる。
⑥ ひまだつたので、／遠回りして／家まで／帰った。

3

- ① 目を／丸く／する。
② 馬が／わらを／食べる。
③ 手／を／頭／の／後ろ／で／組む。
④ 紫色／の／花／が／咲き乱れる。
⑤ あれ／が／私たち／の／学校／です。
⑥ 汽車／は／ゆつくり／駅／を／出／て／ゆきました。

1

(1) ①段落の数は、一字分下げて書かれているところがいくつあるかを数えればよい。②文の数は、句点(。)の数を数えればよい。ただし、句点の代わりに、?や!が使われることもある。

(2) ①文節は、「ネ」や「サ」を入れて区切ってみる。また、一文節には一つの自立語というのが原則なので、それを目安に分けるのもよい。自立語に付属語がいくつついても一文節である。②単語分けは、まず文節に区切り、そのうえで、自立語と付属語とに分ける。付属語が二つ以上ある場合も多いので注意しよう。

2

②「小降り」は「小」と「降り」に分けないように。「小降り」で一単語である。⑥の「遠回りし」もこれで一単語。

⑥「ひまだつたので」は「ひまだつた／ので」と三つの単語できているが、これで一文節。

3

① 目 (名詞)／を (格助詞)／丸く (形容詞)／する (動詞)。

② 馬 (名詞)／が (格助詞)／わら (名詞)／を (格助詞)／食べる (動詞)。

③ 手 (名詞)／を (格助詞)／頭 (名詞)／の (格助詞)／後ろ (名詞)／で (格助詞)／組む (動詞)。

④ 紫色 (名詞)／の (格助詞)／花 (名詞)／が (格助詞)／咲き乱れる (動詞)。

⑤ あれ (名詞)／が (格助詞)／私たち (名詞)／の (格助詞)／学校 (名詞)／です (助動詞)。

⑥ 汽車 (名詞)／は (副助詞)／ゆつくり (副詞)／駅 (名詞)／を (格助詞)／出 (動詞)／て (接続助詞)／ゆき (動詞)／まし (助動詞)／た (助動詞)。